

各団体による野菜の消費拡大の取組について

会 員 名	取 組 概 要
全国農業協同組合連合会	<p>1. ラジオ放送局(関東圏)と連携した取り組み (1)実施時期:平成24年10月～平成25年3月 (2)内容: ア. ラジオでの旬の青果物に関する情報発信(毎週土曜日) (商品・産地・出荷情報、JA全農青果センター職員電話出演によるPR等) イ. ラジオによる事前告知等を含む青果物の販売促進イベントの実施(11/3) ウ. 毎月1回番組内プレゼントコーナーへの商品提供(毎月5名)</p> <p>2. 大学との連携による食育セミナーの開催 (1)実施時期:平成24年11月14日(水) (2)場所:関東圏の大学 (3)内容:有識者と学生による「食」と「農」をテーマとするディスカッション</p> <p>本所での取り組みを中心に記載しており、各県本部においても消費宣伝・消費拡大の取り組みを実施</p>
全国地域婦人団体連絡協議会	<p>東京都地域婦人団体連盟の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都地域婦人団体では、新潟県より枝豆を産地直送で取り寄せた(6～10月末日)。 ・葛飾区では、婦人団体・消費者団体がJAの野菜販売に協力 ・消費生活展の時、福島県の塙町より参加し、特産品(野菜、豆類)を販売(10月13～14日)
NPO法人青果物健康推進協会	<p>1. 風評被害対策「EAT FOR NIPPON」の活動 ・風評被害を少しでも予防することを目的に小冊子「正しく恐れる」を製作し、これを教材に研究者を招聘したセミナーを開催。</p> <p>2. 食育出前授業の実施(3種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の補助事業による出前授業 ・JA熊本経済連版の出前授業 ・「みんなのよい食プロジェクト」版の出前授業 <p>3. 企業で働く世代を対象とした研修会等の開催 ・風評被害を少しでも予防することを目的に小冊子「正しく恐れる」を製作し、これを教材に研究者を招聘したセミナーを開催。</p> <p>4. 産地と連携したスーパー等での研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東急ストア、ダイエー、相鉄ローゼン等で実施 ・研修と販促キャンペーン等を実施 ・JA熊本経済連、JA愛知経済連、全農秋田、全農岩手、全農山形、全農宮城、全農福島

一般社団法人ファイブ・ア・ディ協会	1. 子供を対象にした取り組み(～3月) ・スーパーマーケットでの園児向け食育体験プログラムの実施 ・スーパーマーケットでの児童向け食育体験プログラムの実施
	2. 大人を対象とした取り組み(11月、12月) ・食生活改善セミナー(会員企業社員向け)
	3. 消費者への食育(～3月) ・野菜、果物の量と目安がひと目で分かる新しい表示マーク、ポーション・インジケータの導入
	4. イベントへの出展 ・ぐんま食育フェスタin前橋(11月) ・はちおうじ食育フェスタ(11月)
	5 講演会(講師として) 海匠「食育フェスタ」2012 テーマ「野菜が不足している日本人」～子どもや働く世代への食育事例～
一般社団法人全国清涼飲料工業会	日本清涼飲料研究会「第22回研究発表会(10月24日)」 発表課題 ・野菜飲料摂取による免疫機能改善効果 ・トマトジュース摂取が2型糖尿病患者の血糖値に与える影響 ・精神的ストレス負荷青年期女性に及ぼす緑茶飲料の影響 ・”青森県雪中栽培ニンジンの雪中栽培がニンジン成分に及ぼす影響～美味しいニンジン飲料の開発への期待～” ・ユズおよびハナユの香気特性 ・大麦原料及び緑茶原料から浸出液への放射性セシウムの移行率の検討
全国青果物商業協同組合連合会	・第24回都民のための野菜天国・果物天国・花華楽園まつり2012 11月11日(日)に豊島市場特設会場にて開催
農林水産省	1. 「鍋ほか推進プロジェクト」の実施 今年度も「暖房ほどほどお鍋でほかほか」をコンセプトに、11月～2月を実施期間として、鍋ほか推進プロジェクトについて、フード・アクション・ニッポン公式サイトにて、秋冬野菜の取材記事、各地の鍋料理・秋冬野菜イベント情報等を掲載する予定。 2. 被災地応援取組の「農林水産省食堂応援フェア」実施による被災地産野菜の消費促進 「食べて応援しよう！」の一環として農林水産省内食堂・売店にて応援フェアを実施し、被災地産野菜の活用を促進。(6月4日～11月16日)